

ICC2013 参加報告



【ICC2013 概要】

名称：International Camp on Communication and Computers 2013

実施期間：2013年7月15日～24日

開催場所：チェコ共和国 テルチ市

会場：マサリック大学 ユニバーシティセンター テルチ

参加対象：16～21歳の視覚障害者

参加国：20カ国（UK・ドイツ・オランダ・イタリア・オーストリア・スロベニア・ルーマニア・スロバキア・チェコ・ポーランドといったヨーロッパを中心とした国々及び、ロシア、日本、南アフリカ等）

参加者数：約200人（参加者：140人 スタッフ：40人 ボランティア：20人）

科学ヘジャンプ基金による日本からの参加者：（高校生2名、大学生1名、引率大学院生1名）

科学ヘジャンプ・サマーキャンプ実行委員の2名がスタッフとして参加



ユニバーシティセンター テルチ

【内容と参加者の様子】

1. パソコン技術 ワークショップ：

機器の操作やアプリケーション、Webサービスの利用方法等を学ぶ。（約30種類）



Mac OS X のアクセシビリティ



アクセスの確認



2. ソーシャル ワークショップ：

意見交換やニュースペーパーの執筆、音楽、スポーツなどを行う。（約20種類）



プレゼンテーション スキル

（日本からの参加生徒による発表は大好評でした。）



ボールダンシング

3. 遠足：

今年は物語に沿って6つのタスクをこなしていき、達成するとコインをもらえるというイベントでした。



綱渡り挑戦



鍛冶屋に挑戦



設計図通りに城作り

4. レジャー タイム：



手漕ぎボート体験



2人乗り自転車挑戦



手編みカゴ作成



市内見学（今でも水が出る古い井戸）



博物館見学



昔の地下道探検



ティールーム（世界中のお茶を味わえる）



食事風景

5. バーベキューパーティー



楽団



中世の踊り



さあ食べよう！

6. お別れパーティ（23日）



Joachim さんの挨拶



日本からの参加学生による合唱



パーティ会場

【参加学生の感想】

* チェコに行くまでは、ALT の先生以外に海外の人と話したことがなかったので、自分の英語がどれくらい伝わるものなのか全く見当が付きませんでした。その分、向こうで初めて英語が通じた時の嬉しさは、わたしにとってとても大きなもので、同時に自信もつきました。初めて通じたときのことは、これからも忘れることはないと思います。

ICC に参加したことで、さまざまな貴重な経験をすることができましたが、1 番印象に残っているのは、ハンガリー人の女の子と話しているときに言われた一言です。話の途中で単語を選び間違えてまったく違う意味の文を作ってしまう、それに気づいて慌てて謝って訂正するとその子は、「コミュニケーションをとるうえで文法的に正しく話すことは大して重要ではない。大切なのは相手の言いたいことがわたしに正しく理解できて、逆にわたしの言いたいことが相手に正しく伝わることだ。」と言っていました。これはもっとも基本的なことで、かつもっとも大切なことだと思います。

初めて海外に行き、これまでと比べて自分の世界が広がりました。これまで当たり前だと考えていたことが日本の外では当たり前ではなく、これまで日本の習慣や文化だと気づいていなかったことが、日本の外に出ることによって浮き彫りになりました。夜に自然に皆で踊りだすほど踊りが盛んであることや、時間の感覚が日本とちがうこと、建物の階の数え方がちがうこと、日が長いので午後 9 時ごろまで外で活動するのが普通であること、お店の雰囲気の違いなど、実際に行ってみて毎日が新たな発見の連続でした。本当に ICC に参加できてよかったと思うのと同時に、こんな機会をいただいたことに、感謝します。(大学 2 年女子)

* 最初に世界の視覚障害者と交流ができたことに感謝します。次に、この ICC のおかげで気づかされたことがあります。それは人と親しくするには積極的な行動や笑顔でいることの大切さです。(高校 2 年男子)

* 研修では様々な初体験をすることができた。また、中学二年生の時に「科学ヘジャンプ・サマーキャンプ」で全国の視覚障害のある人たちと出会った時と同じように今度は海外の仲間を知ることができた。言語や文化、目の見え方が違っても、同じように頑張っているのは非常に良い刺激となった。今私は日本に帰国後、視覚障害のある人に会った時にはチェコでの経験を話すようにしている。まだあまりたくさんの人には伝えられていないのでこれからどんどん発信して行きたい。この研修に参加できたことに感謝するために！ 地元の送り出してくれた仲間たちのために！(高校 1 年女子)

【引率大学院生の感想】

今回 ICC に参加して、英語で聞く・話すことの重要性を痛感した。ICC の運営はいい意味で臨機応変、大雑把なところがあり、予定変更をする際事前に文書で知らせるということはほとんど行わない。したがって口頭で通達される連絡をしっかりと聞き取る必要があった。また日本では、人とコミュニケーションを取る際言葉に苦勞するという経験があまりなかった。しかし今回、言葉を満足に使えないことで積極的に関わっていくことができない場面が多々あった。それに比べ、同年代の海外のボランティア学生は、母国語でないにも関わらず英語を流暢に話しながら積極的にサポートを行っていた。この姿は見習わなければならないものだと感じた。私にとってヨーロッパを訪れるのは今回が初めてであった。話で聞くだけでは分からなかった異国の雰囲気を肌で感じ、もっと世界のことを自分の目で見て感じて学びたいと考えるようになった。そのためにも、今後もっと英語の勉強をしていきたいと思う。

今回の経験は私を含め参加者にとっても、今後の生活においてとても大きな価値を持つものだった。ICC という貴重な体験をすることができ本当に良かった。



全体集合写真